

キリンググループ 2017年度12月期第2四半期決算

2017年8月3日
キリンホールディングス株式会社

第2四半期決算概要

2Q決算および通期業績予想修正サマリー

上半期利益計画を上回る進捗

- ▶ 日本総合飲料、医薬・バイオケミカル事業の増益により営業利益計画達成
- ▶ ブラジルキリンが連結除外となった影響※等により、売上高は減少
- ▶ 親会社株主に帰属する四半期純利益は、固定資産売却益の計上やブラジルキリン株式譲渡に伴う税効果もあり、大幅増益



通期業績予想（6/1修正発表）を修正

- ▶ キリンビバレッジ、協和発酵キリンの通期利益計画を上方修正
- ▶ キリンビールは、ビール類の販売数量計画を下方修正するが、RTDの販売数量増等により、年初利益計画の達成を目指す
- ▶ 利益計画達成により株主還元充実を図る（平準化EPS 137円を想定）

※ ブラジルキリンは、2017年2Qより連結除外のため、1Q実績のみを取込み

2Q決算ハイライト

売上高は減収となったが、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益が増益

億円	2017年 2Q実績	2016年 2Q実績	対前年増減		2Q業績予想 年初
売上高	9,617	10,081	△464	△4.6%	10,100
営業利益	797	588	209	35.7%	550
経常利益	792	581	210	36.3%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	834	338	495	146.6%	

■ 定量目標

	2017年2Q実績	2016年2Q実績	対前年増減	
平準化 E P S (円) ※	75	53	22	41.5%

■ 財務指標

※ 明細はP.19を参照

	2017年2Q実績	2016年2Q実績	対前年増減	
のれん等償却前営業利益 (億円)	936	732	203	27.8%
E P S (円)	91.40	37.07	54.33	146.6%
のれん等償却前 E P S (円)	112	59	53	89.8%

2Q連結営業利益 増減要因（対前年）

ビール事業

<麒麟ビール>

・ビール類の販売数量は減少、RTD・ノンアルコール「零イチ」の好調、原材料コストダウンにより増益、販売費は投入時期見直し

<ライオン酒類>

・ライセンスブランド喪失影響により減益

<ミャンマー・ブルフリー>

・販売数量大幅増、昨年度値上げ効果により増益

低収益事業

<麒麟ビバレッジ>

・「午後の紅茶」「生茶」の好調による商品ミックス改善、コスト削減の進捗により大幅増益、販売費は投入時期見直し等

<ライオン飲料>

・オレンジ果汁高騰、標準原価制度による在庫評価により減益

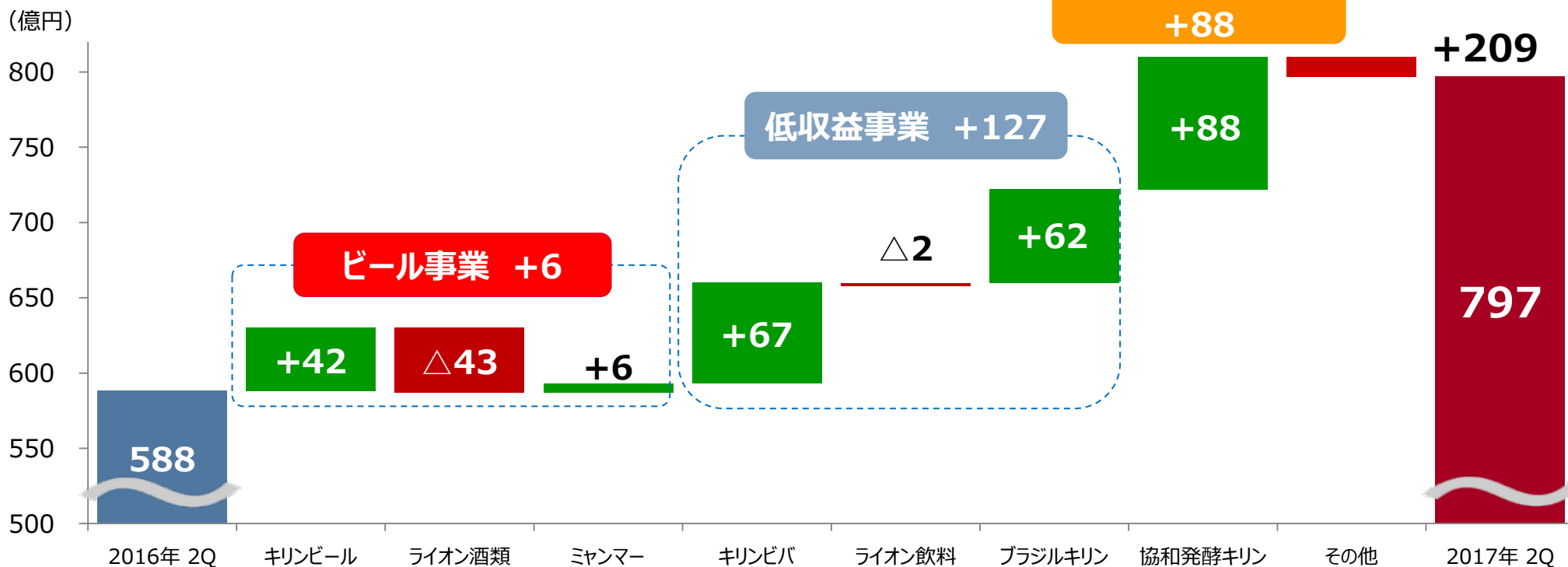
<ブラジル麒麟>

・株式譲渡完了、2Qより連結範囲から除外（前年 のれん等償却前営業損失△70億）

医薬・バイオケミカル事業

<協和発酵麒麟>

・国内医薬品の売上は減少、技術収入の増加、研究開発費の減少等により増益



通期連結業績予想修正

キリンビバレッジの計画を上回る進捗、医薬・バイオケミカル事業の業績予想修正等を加味し
営業利益、経常利益、親会社に帰属する当期純利益を上方修正

■ 通期連結業績予想

億円	2 Q修正	6/1業績 修正予想	差異	セグメントごとの修正額等	2016年 実績	対前年 増減
売上高	19,700	19,800	△100	日本総合飲料：△70（麒麟ビール△134） 海外総合飲料：△20（ライオン△50） 医薬・バイオケミカル：+30	20,750	△5.1%
営業利益	1,520	1,460	60	日本総合飲料：+20（麒麟ビバレッジ+20） 海外総合飲料：+5（ライオン+8） 医薬・バイオケミカル：+40	1,418	7.1%
経常利益	1,560	1,550	10	為替差損	1,406	10.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,140	1,120	20	事業構造改善費用	1,181	△3.5%

■ 定量目標

	2 Q修正	年初予想	差異	2016実績	対前年増減
のれん等償却前ROE	18.6%	13.9%	—	21.9%	—
平準化EPS	137円	126円	11円	125円	9.6%

市場動向をとらえた重点ブランドへの投資集中

魅力あるビール・
おいしさへの期待、
将来のビール減税

ビールカテゴリーの
魅力化

手頃な価格への
継続的な支持

発泡酒・新ジャンル
お客様支持回復

RTDカテゴリー
飲用者の拡大、
若年層の支持

RTD・ノンアルコール
市場でのブランド強化

ビールの代わり
となるおいしさへの
期待



一番搾り



クラフトビール



のどし(生)



KIRIN
氷結 本搾り



キリン
零 ICHI
ゼロイチ



「一番搾り」を日本のビールの本流に

中味の進化
麦のうまみをアップ

目指したのは、日本の繊細な味覚を満足させる

「一番おいしいビール」

おいしさの源

一番搾り製法

進化ポイント

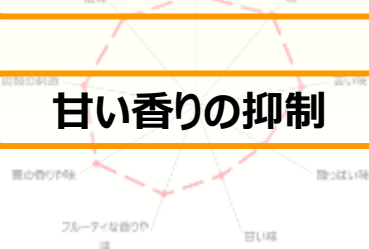
「麦のうまみ」 + 「味の調和」

うまみ成分アップ

雑味・渋みの低減

酸味の抑制

甘い香りの抑制



パッケージの進化

品質感を高めた洗練されたデザインへ



おいしさ感が
高まる**“金蓋”**

“光沢感”ある
ベースカラー

丁寧に搾った
印象の**“立体的な
雫マーク”**

コミュニケーションの進化

おいしさ表現、TVCM圧倒的投入量

話題化

TVCM
15,000 GRP投入予定

利益ある成長に向けた構造改革の完遂

強固なブランド体系の構築

収益構造改革

■ 選択と集中のマーケティング



- 「午後の紅茶」「FIRE」「生茶」の強化
 - ✓ 「生茶」の育成
 - ✓ 「FIRE」の再生



- 健康カテゴリーへの挑戦
 - ✓ ストレス軽減
 - ✓ 疲労感軽減
 - ✓ 快眠サポート
 - ✓ プラズマ乳酸菌

◆ 収益改善施策の着実な実行

- 缶・小型PETを中心とした目標マネジメントの徹底
- 販売費マネジメント、売上単価UP
- サプライチェーンコストダウン
- SKU削減、廃棄削減
- 労働生産性の向上



◆ アライアンスの検討

2017年度 財務戦略 アップデート

構造改革により前倒しでフリーキャッシュフローを創出、財務柔軟性は向上
安定した株主還元と成長投資へ充当

キャッシュイン

ブラジルキリン

株式
譲渡金
貸付金
回収
マカク
工場

資産流動化

横浜
アリーナ株

不動産

政策保有
株式

フリーキャッシュフロー

前倒し達成

16-17年見通し

4,300億円

2016年中計計画
2,600億円

増配

39円（年初） → **41円**

連結配当性向30%

着実な負債返済

16-17年見通し

2,200億円

2016年中計計画
1,350億円

今後の方針

①成長投資

戦略投資・効率化に向けた投資検討

②株主還元充実

配当性向見直し・自社株買いを含め検討



2016年中計の進捗と今後の取組み

2016年中計前半を終えての振り返り

構造改革を迅速に推進 中計達成に向けて順調な進捗

キリングroup2016年中計
はじめに

- ▶ 収益性改善に向けた構造改革を、迅速に、広範かつ大胆に進める
- ▶ 取り組むべき重要課題を明確にし、事業間の資源配分にメリハリをつける
- ▶ 結果にこだわり、計画をやり切る

2016年2月発表 キリングgroup中期経営計画資料より抜粋

2016年中計前半を終えての振り返り

1. ビール事業の収益基盤強化

▶ 麒麟ビール

- ・ビールカテゴリーの魅力化に一貫して取り組む
- ・新ジャンルのお客様支持回復に努める
- ・公正な取引環境の整備による業界健全化を推進

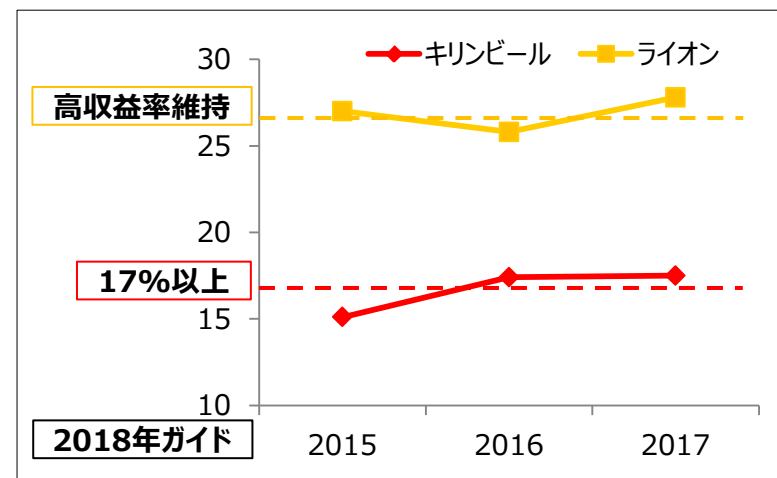
▶ ライオン酒類

- ・POST-ABI戦略を着実に実行中

▶ マンマー・ブルワリー

- ・PMIをスピーディーに実行
- ・生産能力を増強し、ビール市場の成長を確実に取込み市場ポジションを維持

酒税抜売上高営業利益率



2. 低収益事業の再生・再編

▶ 麒麟ビバレッジ

- ・注カブランド強化・収益構造改革が着実に進捗
- ・2018年ガイドを上回る収益性を実現

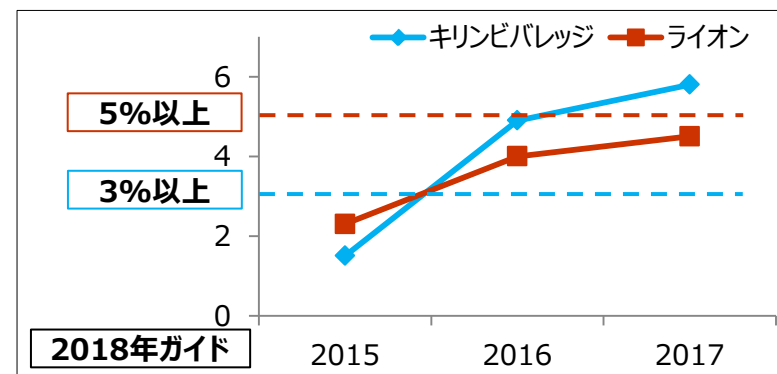
▶ ブラジル麒麟

- ・業績回復を実現、株式譲渡を5月末に完了

▶ ライオン飲料

- ・増収増益への転換に向け、継続したコスト削減、注カカテゴリーの販売増を達成

売上高営業利益率



3. 医薬・バイオケミカル事業の飛躍的成長

▶ 協和発酵麒麟

- ・グローバル戦略品目KRN23の開発が順調に進捗、2018年度上市の期待が非常に高まる

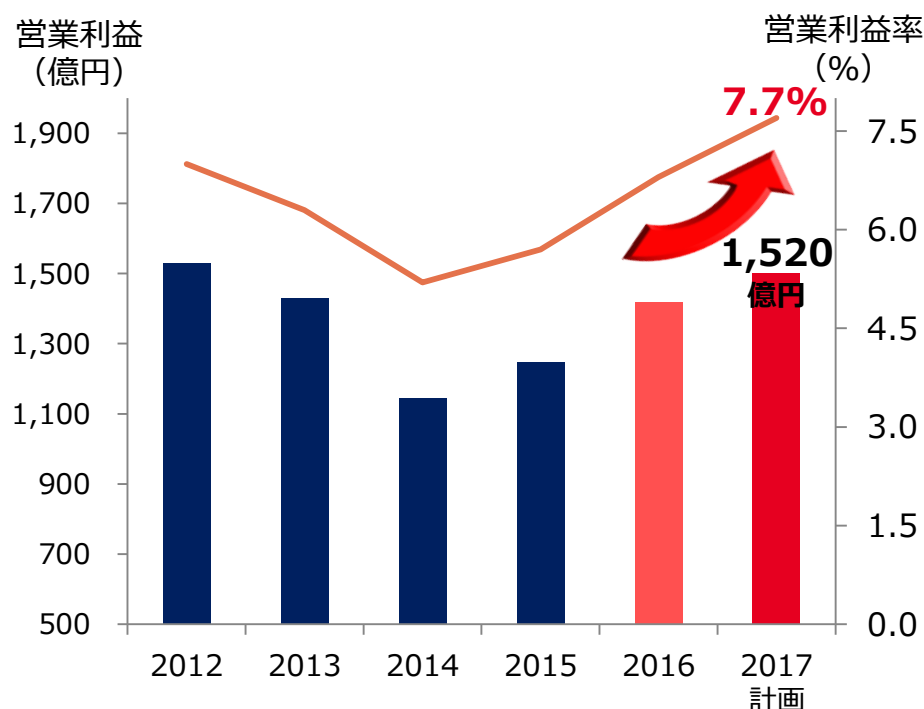
2016年中計前半を終えての振り返り

持続的成長に向けた基盤ができてきた

キリングroupの 連結業績推移

業績向上を 支える取組み

収益性の改善が順調に進む



CSVコミットメント策定

3つの重点社会課題※を設定、
持続的成長を具現化

コーポレートガバナンス進化

取締役会による経営監督機能強化
経営の透明性・公平性向上
役員報酬体系の改定

ハンズオンによる経営

本社と国内統括会社の一体運営・
執行役員制による迅速な意思決定

※事業と関係の深い「健康」「地域社会」「環境」を設定

利益成長に向けた集中と深化

経営資源配分にメリハリをつけ、**更なる利益成長**を目指す

中期的な利益成長余地を踏まえ、
麒麟ビール、麒麟ビバレッジ、協和発酵麒麟へフォーカスし、中計達成を実現する

1. ビール事業の収益基盤強化

➤ 麒麟ビールを最優先として、再成長を実現する

2. 低収益事業の再生・再編

➤ 麒麟ビバレッジは、利益ある成長を目指し、収益性を更に改善する

3. 医薬・バイオケミカル事業の飛躍的成長

➤ 協和発酵麒麟は、グローバル戦略品の上市により、飛躍的成長を実現する

キリンビールの再成長を実現する

収益構造変革とブランド力の強化

公正な取引環境整備
競争と協調の推進

ビールカテゴリー魅力化
一番搾り
クラフトビール

成長カテゴリーの育成
RTD

過度な価格競争

ビール離れ
嗜好の多様化

少子高齢化
総市場縮小

酒税改正
(ビール類一本化)

ユニークな事業ポートフォリオを最大限に活かし 新たな価値創造を実現

グローバル競争力の強化と健康領域でのシナジーを実現

協和発酵キリン

- 研究開発から製造・販売まで一連のバリューチェーンを保有
- グループのコア事業として、飛躍的成長による利益成長の牽引を期待
- 酒類、飲料とのシナジーにより、「健康」を軸に新規事業の創造にも取り組む
 - 協和発酵キリンの現在の持分（50.1%）は保有継続

■ 持続的な成長に向けて

- ▶ 中計後半も構造改革のスピードを緩めず、結果にこだわり、計画をやりきる
- ▶ キリンビールの再成長に最注力する
- ▶ 社会課題の解決に向けた取組みを加速し、「健康」を軸とした新規事業の創造に取り組んでいく

資料編

(参考) 平準化EPS 明細

億円	2017年目標 (2Q修正)	2017年 2Q実績	2016年2Q実績
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,140	834	338
のれん等償却額	375	189	197
税金等調整後特別損益	△263	△341	△54
平準化四半期純利益 ①	1,251	682	481
期中平均株式数 (千株) ②	912,582	912,547	912,526
平準化EPS (円) ①÷②	137	75	53

2Q実績 セグメント別業績

(億円)	2017年 2Q 実績	2016年 2Q 実績	対前年増減	
				%
売上高	9,617	10,081	△464	△4.6%
日本総合飲料	5,259	5,330	△71	△1.3%
海外総合飲料	2,534	2,927	△393	△13.4%
医薬・バイオケミカル	1,722	1,706	15	0.9%
その他	102	116	△14	△12.6%
営業利益	797	588	209	35.7%
日本総合飲料	308	207	100	48.7%
海外総合飲料	256	232	24	10.4%
医薬・バイオケミカル	256	168	88	52.3%
その他	9	11	△2	△21.7%
全社費用・消去	△32	△31	△1	
経常利益	792	581	210	36.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	834	338	495	146.6%

売上高

- キリンビバレッジの販売費一部売上控除影響(1Qのみ)、ライオン酒類の販売数量減少、ブラジルキリンの連結除外影響等により対前年△464億円減収、海外総合飲料事業の連結為替影響+7億円
- ブラジルキリンの連結除外影響等により上半期計画に対して未達

営業利益

- 日本総合飲料事業、医薬・バイオケミカル事業の増益により、全体で対前年+209億円増益、海外総合飲料事業の連結為替影響 △10億円
- 各セグメントとともに、対計画を上回る進捗

経常利益・四半期純利益

- 経常利益は、営業利益の増加に加え、サンミゲルビール社の業績好調による持分法投資損益の増加等により、対前年+210億円増益
- 四半期純利益は、ブラジルキリン株式譲渡に伴う売却損の計上はあったが、株式譲渡に伴う税効果、経常利益の増加、および固定資産売却益の計上により、対前年+495億円の増益

2 Q実績 日本総合飲料・海外総合飲料

(億円)	2017年 2Q 実績	2016年 2Q 実績	対前年増減		(億円)	2017年 2Q 実績	2016年 2Q 実績	対前年増減	
				%					%
日本総合飲料 売上高	5,259	5,330	△71	△1.3%	海外総合飲料 売上高	2,534	2,927	△393	△13.4%
キリンビール	3,121	3,125	△4	△0.1%	ライオン	1,837	2,062	△225	△10.9%
キリンビバレッジ	1,578	1,676	△98	△5.9%	ブラジルキリン※	315	507	△191	△37.8%
メルシャン	307	310	△3	△1.3%	ミャンマー・ブルワリー	132	122	10	8.3%
その他・内部取引消去	252	217	35	16.2%	その他・内部取引消去	248	234	13	5.9%
営業利益	308	207	100	48.7%	営業利益	256	232	24	10.4%
キリンビール	283	240	42	17.8%	ライオン (のれん等償却後)	207	252	△44	△17.7%
キリンビバレッジ	126	59	67	113.4%	ブラジルキリン※ (のれん等償却後)	△10	△74	64	—
メルシャン	21	14	6	41.8%	ミャンマー・ブルワリー (のれん等償却後)	43	35	7	21.7%
その他	△122	△107	△15		その他	15	18	△2	△15.2%

※ ブラジルキリンは、2017年2Qより連結除外のため、1 Q実績のみを取込み

2 Q実績 日本総合飲料 キリンビール

		2017年 2Q 実績	2016年 2Q 実績	対前年増減
売上数量 (千KL)	ビール	283	288	△1.6%
	発泡酒	216	219	△1.0%
	新ジャンル	257	269	△4.4%
	計	758	777	△2.4%
	RTD	146	136	7.6%
	ノンアルコール飲料	18	12	48.7%

売上高 (億円)	3,121	3,125	△0.1%
酒税売上高 (億円)	1,845	1,840	0.3%

2016年度2Q 営業利益		240	主な内容
対前年増減 (億円)	酒類限界利益増	7	ビール減 △5千kl △6億、発泡酒減 △2千kl △2億、新ジャンル減 △12千kl △13億、RTD増 10千kl 11億 他
	原材料費減	16	原料費減 9億、包材費減 7億
	販売費減	28	販売促進費減 25億、広告費減 7億 (483億→450億) 他 (ビール・発泡酒・新ジャンル 43億 他)
	その他費用増	△9	減価償却費増 △4億 他
	計	42	
2017年度2Q 営業利益		283	

ビール市場全体

消費マインドの低迷が続く中、6月からの酒税法等改正の影響により店頭価格が上昇し、市場全体は△1.3%となった
(上半期課税移出数量)

キリンビール販売数量

- ビール類は、1月から先行して自主ガイドラインを変更した影響等により、約19千KL (△2.4%) の減少となったが、RTDは約10千KLの増加 (+7.6%)、ノンアルコールは約6千KLの増加 (+48.7%) となり、ビール類のマイナスを補った
- 「一番搾り」ブランドは、△1%と市場を上回って推移
- 「淡麗」ブランドは△1%、「のどごし」ブランドは△3%
- 「氷結」ブランド(+9%)、本搾り(+18%) と好調
- ノンアルコール飲料の新商品「零イチ」は6月末で年間目標の6割を達成、約210万ケース (5割増) に上方修正

2Q実績 日本総合飲料 キリンビバレッジ

販売数量（万ケース）		2017年 2Q 実績	2016年 2Q 実績	対前年増減
カテゴリー別	紅茶	2,494	2,418	3.1%
	日本茶	1,420	1,216	16.8%
	コーヒードリンク	1,468	1,506	△2.5%
	果実・野菜飲料	1,183	1,282	△7.7%
	炭酸飲料	999	1,127	△11.4%
	健康・スポーツ飲料	418	363	15.2%
	水	1,872	2,002	△6.5%
	その他	762	※ 786	△3.1%
容器別	缶	1,896	1,956	△3.1%
	大型PET	3,495	3,498	△0.1%
	小型PET	4,239	4,237	0.0%
	その他	986	※ 1,009	△2.3%
	計	10,616	10,700	△0.8%
売上高（億円）		1,578	1,676	△5.9%

清涼飲料市場全体

昨年4月熊本地震発生時の需要増の裏返しが発生、上半期は微減となった模様

キリンビバレッジ販売数量

清涼飲料合計：△0.8%

- ・カテゴリー
注カブランド「午後の紅茶」(+3%)、「生茶」(+16%)、「FIRE」(△6%)
健康・スポーツ飲料は新商品発売効果により増加（+15.2%）
- ・容器
缶・小型PET（△1%）
- ・チャネル
量販チャネルでは「生茶」・「午後の紅茶」・「FIRE」が増加、「アルカリイオンの水」が減少
CVSチャネルでは「午後の紅茶」・「生茶」が増加、「FIRE」が減少
自販機チャネルでは、「生茶」・「メッツ」が増加、「FIRE」が減少

※ 2017年連結除外の製造子会社受託販売分を除く

2016年度2Q 営業利益		59	主な内容
対前年増減 （億円）	清涼飲料限界利益増	32	販売数量減△83万ケース △4億、商品・容器構成差異等 36億
	原材料費等減	21	原料費減 3億、包材費減 11億、加工費減 6億
	販売費減	11	販売促進費減 21億、広告費増 △9億（計 172億→160億）
	その他費用減	2	
計		67	
2017年度2Q 営業利益		126	

2Q実績 海外総合飲料 ライオン

	円ベース（億円）			
	2017年 2Q 実績	2016年 2Q 実績	増減額	増減%
売上高	1,837	2,062	△225	△10.9%
酒類	1,057	1,261	△203	△16.2%
飲料	779	801	△22	△2.8%
のれん等償却前営業利益	279	324	△45	△14.1%
酒類	288	331	△43	△13.0%
飲料	24	26	△2	△8.0%
本社	△34	△33	△0	—
のれん償却額	△55	△55	0	—
ブランド償却額	△16	△16	0	—
営業利益	207	252	△44	△17.7%

豪ドルベース（百万豪ドル）			
2017年 2Q 実績	2016年 2Q 実績	増減額	増減%
2,176	2,404	△227	△9.5%
1,253	1,469	△216	△14.8%
923	934	△10	△1.1%
330	378	△47	△12.6%
341	386	△44	△11.6%
29	31	△2	△6.5%
△40	△39	△1	—
△65	△65	△0	—
△19	△19	0	—
246	294	△47	△16.3%

連結期間：2016年10月～2017年3月
為替レート：84.40円（前年同期：85.81円）

	酒類	飲料
販売数量増減	△15.5%	△1.2%

売上高

酒類：豪州酒類事業の販売数量減少の影響による減収、ABIライセンスブランド影響を除く売上はほぼ前年並み、連結為替影響△17億円
飲料：注力カテゴリーの販売は堅調、果汁カテゴリーは原料価格高騰の影響を受け販売数量が減少し、全体では微減
連結為替影響 △13億円

のれん等 償却前 営業利益 増減 (百万豪ドル)	2016年	386	31
	販売数量増減	△88	△3
	その他	43	1
	2017年度	341	29

のれん等
償却前
営業利益

酒類：主に豪州酒類事業の販売数量減により減益、ABIライセンスブランド影響を除く営業利益はほぼ前年並み
連結為替影響 △4億円
飲料：期首に棚卸資産の評価減を実施した影響、オレンジ果汁原料価格高騰の影響による原材料費増加・販売数量減少により減益
連結為替影響 △0億円

2Q実績 海外総合飲料 ミャンマー・ブルワリー

	円ベース（億円）				チャットベース（Billionチャット）			
	2017年 2Q 実績	2016年 2Q 実績	増減額	増減%	2017年 2Q 実績	2016年 2Q 実績	増減額	増減%
売上高	132	122	10	8.3%	158	131	27	20.6%
のれん等償却前 営業利益	59	52	6	12.6%	70	56	14	25.4%
のれん償却額	△8	△8	0	－	△9	△8	△0	－
ブランド償却額	△7	△8	0	－	△9	△9	－	－
営業利益	43	35	7	21.7%	51	38	13	35.5%

連結期間：2016年10月～2017年3月 為替レート：1,000チャット＝83.72円（前年同期：93.20円）

■ 販売数量増減

(%)	対前年
ビール	+16.0

- ・メインブランドの「ミャンマービール」は、プロモーション効果等により、前年を上回る（+4%）
- ・エコノミーカテゴリー「アングマン ゴールド」の販売は引き続き大幅に増加（+95%）
- ・容器別では、缶と大樽の販売数量が伸長

売上高

- ・販売数量の大幅な増加に加え、昨年度に実施した値上げ効果もあり、増収
- ・商品ミックスは、エコノミーカテゴリーの構成比が上がったため、マイナス要因
- ・連結為替影響 △15億円

のれん等
償却前
営業利益

- ・販売数量の大幅な増加、値上げ効果により、人件費増・為替影響による原材料費増を吸収し増益
- ・販売費の一部は、支出時期の変更により、下期に計上予定
- ・商品ミックスは、エコノミーカテゴリーの構成比が上がったため、マイナス要因
- ・USドルに対するチャット安へ対応するために、キリングroupと連携したコスト削減を実施中
- ・連結為替影響 △6億円

2 Q実績 医薬・バイオケミカル

(億円)	2017年 2Q 実績	2016年 2Q 実績	対前年増減	
売上高	1,722	1,706	15	0.9%
協和発酵キリン	1,756	1,740	16	0.9%
医薬	1,352	1,318	34	2.6%
バイオケミカル	404	422	△17	△4.2%
その他・内部取引消去	△34	△34	△0	—
営業利益	256	168	88	52.3%
協和発酵キリン	256	168	88	52.3%
医薬	207	116	90	77.7%
バイオケミカル	33	34	△1	△5.0%
その他・のれん償却額消去	47	47	△0	△1.6%
のれん償却額	△30	△30	—	—

売上高

医薬：薬価改定や後発医薬品の影響により国内医薬品売上は減少、KHK4563に関する海外での技術収入の増加が大きく貢献し、増収

バイオケミカル：国内売上は通信販売などが堅調に推移し増加したが、海外売上高が減少し、減収

営業利益

医薬：海外での技術収入の増加に加え、研究開発費を含む一般管理費の減少により増益

バイオケミカル：売上高の減少により減益

キリングループコスト削減の取り組み

各社がコスト削減が順調に進捗し、17年度目標を上方修正

中計3年間（2016年－2018年）のコスト削減目標 300億円の前倒し達成を目指す

(億円)	2016年度 コスト削減 実績	2017年度 年初目標	2017年度 2Q実績	2017年度 2Q修正	2016・17年 通算	2017年度の主な取り組み
麒麟ビール	72	15	12	27	99	原材料、資材調達、 サプライチェーンコスト削減
麒麟 ビバレッジ	61	9	10	15	76	原材料、資材調達、 サプライチェーンコスト削減
ブラジル麒麟	72	13	12	12	84	マカク工場売却 (2016年度に実施済み)
その他	45	3	4	11	56	メルシャン、ミャンマー・ブルワリー 他
合計	250	40	38	65	315	

通期業績予想修正 日本総合飲料・海外総合飲料

億円	2017年 (2Q修正)	2016年 実績	対前年増減	
日本総合飲料 売上高	11,630	11,532	97	0.8%
麒麟ビール	6,927	6,845	81	1.2%
麒麟ビバレッジ	3,458	3,546	△88	△2.5%
メルシャン	654	663	△9	△1.4%
その他・内部取引消去	590	477	113	23.8%
日本総合飲料 営業利益	695	672	22	3.4%
麒麟ビール	721	698	22	3.2%
麒麟ビバレッジ	200	172	27	15.7%
メルシャン	32	36	△3	△9.9%
その他	△259	△235	△23	—
海外総合飲料 売上高	4,480	5,614	△1,134	△20.2%
ライオン	3,447	3,726	△279	△7.5%
ブラジル麒麟	315	1,179	△863	△73.2%
ミャンマー・ブルワリー	243	224	18	8.5%
その他・内部取引消去	473	483	△10	△2.1%
海外総合飲料 営業利益	465	433	31	7.4%
ライオン※	383	428	△44	△10.5%
ブラジル麒麟※	△10	△90	80	—
ミャンマー・ブルワリー※	56	54	2	3.8%
その他	35	41	△5	△13.7%

2017年 (6月1日修正)	2Q対修正 増減
11,700	△70
7,061	△134
3,497	△39
661	△7
479	110
675	20
721	—
180	20
22	10
△249	△10
4,500	△20
3,498	△50
315	—
243	—
442	30
460	5
374	8
△10	—
56	—
39	△3

※のれん等償却後営業利益

注：ブラジル麒麟は、2017年2Qより連結除外のため、1Q実績のみを取込み

通期業績予想修正 日本総合飲料 キリンビール

	(千KL)	2017年 (2Q修正)	2016年 実績	対前年 増減	2017年 (年初)
売上 数量	ビール	638	648	△1.6%	680
	発泡酒	461	470	△2.0%	462
	新ジャンル	585	578	1.2%	588
	計	1,685	1,698	△0.8%	1,730
	RTD	322	292	9.9%	311
	ノンアルコール飲料	45	26	71.6%	35

売上高 (億円)	6,927	6,845	1.2%	7,061
酒税抜売上高 (億円)	4,111	4,022	2.2%	4,166

売上高・販売数量

- ビール類の販売数量は、上半期の未達部分を踏まえ下方修正し、下半期は前年並みを目指す
- RTD、ノンアルコール「零イチ」の販売数量を上方修正
- 売上高は下方修正するが、増収を目指す

営業利益・利益増減

- 限界利益は、ビール類の減少分を、RTD・ノンアルコール飲料での増加分でカバーし、対前年+59億円
- 販売促進費、広告費は前年並みを計画し、下半期の活動強化に充当
- 原材料費は原材料コスト削減の進捗、市況を反映
- その他費用は、減価償却費、電力・燃料費、修繕費の増加を見込む

2016年度営業利益		698	主な内容
対前年 増減 (億円)	限界利益増	59	ビール減 △11千kl △14億、発泡酒減 △9千kl △10億、新ジャンル増 7千kl 8億、RTD増 28千kl 30億、他
	原材料費減	26	原材料費減 他
	販売費増	△7	販売促進費・広告費 (計 963億→963億) 他
	その他費用増	△56	減価償却費増、電力・燃料費増 他
計		22	
2017年度営業利益		721	

2017年 (年初)	
限界利益増	72
原材料費減	8
販売費	0
その他費用減	△58
計	22
営業利益	721

通期業績予想修正 日本総合飲料 キリンビバレッジ

販売数量（万ケース）		2017年 （2Q修正）	2016年 実績	対前年 増減	2017年 （年初）
カテゴリー別	紅茶	5,350	5,264	1.6%	5,300
	日本茶	3,230	2,877	12.3%	3,100
	コーヒー飲料	3,240	3,234	0.2%	3,330
	果実・野菜飲料	2,380	2,731	△12.9%	2,620
	炭酸飲料	1,890	2,312	△18.3%	2,040
	健康・スポーツ飲料	1,090	902	20.8%	1,080
	水	4,070	4,168	△2.4%	4,040
容器別	その他	1,950	※ 1,844	5.7%	1,840
	缶	4,132	4,169	△0.9%	4,158
	大型PET	7,368	7,617	△3.3%	7,285
	小型PET	9,465	9,320	1.6%	9,629
	その他	2,235	※ 2,226	0.4%	2,278
計		23,200	23,332	△0.6%	23,350
売上高（億円）		3,458	3,546	△2.5%	3,497

売上高・販売数量

- ・「FIRE」・「アルカリイオンの水」の販売数量未達等を踏まえ、清涼飲料全体では150万ケース下方修正するが、「午後の紅茶」・「生茶」の販売目標を引き上げる
- ・「FIRE」は下半期の販売数量増により通期前年並みを目指す
- ・引き続き缶・小型PETの販売に注力する

営業利益・利益増減

- ・限界利益は、販売数量の減少分を、商品・容器ミックス等改善によってカバーする
- ・下半期の注力ブランド販売強化を目的に、販売費の投入時期を見直した結果、下半期の販売費増加を見込む
- ・市場動向を鑑み、固定販促費の一部を変動費に用途見直し
- ・コスト削減の取り組みは順調に進捗、下半期に原料費の市況悪化等により、原材料費等は増加する見込み
- ・その他費用の進捗を踏まえ、年初営業利益計画から20億円上方修正

※ 2017年連結除外の製造子会社受託販売分を除く

2016年度営業利益		172	主な内容
対前年 増減 （億円）	清涼飲料限界利益増	35	販売数量減 △132万ケース △6億 商品・容器構成差異等 41億
	原材料費等減	7	原料費増 △8億、包材費減 10億、加工費減 5億
	販売費増	△13	販売促進費増 △7億、広告費増 △6億（計 396億→409億）
	その他費用増	△1	
計		27	
2017年度営業利益		200	

2017年（年初）	
清涼飲料限界利益増	32
原材料費等減	5
販売費増	△16
その他費用増	△13
計	7
営業利益	180

通期業績予想修正 海外総合飲料 ライオン

	円ベース（億円）				2017年 （年初）	豪ドルベース（百万豪ドル）				2017年 （年初）
	2017年 （2Q修正）	2016年 実績	増減額	増減%		2017年 （2Q修正）	2016年 実績	増減額	増減%	
売上高	3,447	3,726	△279	△7.5%	3,498	4,104	4,526	△422	△9.3%	4,266
酒類	1,924	2,228	△304	△13.7%	1,976	2,290	2,706	△415	△15.4%	2,409
飲料	1,523	1,498	24	1.7%	1,522	1,813	1,820	△6	△0.4%	1,856
のれん等償却前営業利益	525	567	△41	△7.4%	512	625	688	△63	△9.2%	625
酒類	535	574	△39	△6.8%	522	637	698	△60	△8.7%	637
飲料	69	59	9	15.2%	75	82	72	9	12.9%	91
本社	△79	△67	△11	—	△85	△94	△82	△12	—	△104
のれん償却額	△109	△107	△2	—	△106	△130	△130	△0	—	△130
ブランド償却額	△32	△31	△0	—	△31	△38	△38	0	—	△37
営業利益	383	428	△44	△10.5%	374	456	520	△63	△12.3%	456

連結期間：2016年10月～2017年9月 為替レート：84.00円（年初：82.00円、前年同期：82.33円）

売上高

酒類：ワイン事業売却に伴う減収分を反映
連結為替影響 +38億円

飲料：オレンジ果汁原料価格高騰の影響を受けた果汁カテゴリーの販売
数量減少により下方修正
連結為替影響 +30億円

のれん等償却前営業利益

酒類：年初計画通り
連結為替影響 +10億円

飲料：オレンジ果汁原料価格高騰の影響、その影響による果汁カテゴリー
の販売数量減少により下方修正
連結為替影響 +1億円

(修正なし) 通期業績予想 海外総合飲料 ミャンマー・ブルワリー

	円ベース（億円）				チャットベース（Billionチャット）			
	2017年 計画	2016年 実績	増減額	増減%	2017年 計画	2016年 実績	増減額	増減%
売上高	243	224	18	8.5%	286	247	38	15.6%
のれん等償却前 営業利益	88	88	△0	△0.1%	104	97	6	6.5%
のれん償却額	△16	△17	1	—	△19	△19	—	—
ブランド償却額	△15	△16	1	—	△18	△18	—	—
営業利益	56	54	2	3.8%	66	59	6	10.6%

連結期間：2016年10月～2017年9月 為替レート：1,000チャット＝85.00円（前年同期：90.62円）

下期の取り組み ライオン、ミャンマー・ブルワリー

ライオン酒類

ABIブランド喪失後のリカバリー計画継続

■ 成長カテゴリーのブランド力強化

Contemporary

Craft

International
Premium



上期
実績 +18%

+306%

+13% +152%

更なる強化策を展開

次世代向けブランド導入

■ スポンサーシップを活用した主力ブランド強化



×



ミャンマー・ブルワリー

市場の変化に合わせた確実な対応

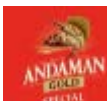
■ セールスプロモーションによる

リーダーポジション強化

中価格帯



低価格帯



■ 事業基盤の強化

価格改定

増設工事と安定操業
の両立

コストダウン

ライオン飲料

注力カテゴリー強化と収益構造改革の継続

■ Turn Around Plan の継続



注力カテゴリーの
販売強化

Milk Based
Beverageの
生産性向上

■ 持続的な成長に向けた 取り組み



健康・自然
志向への対応

持続可能な生乳
サプライチェーン
構築

通期業績予想修正 医薬・バイオケミカル

億円	2017年 (2Q修正)	2016年 実績	対前年増減		2017年 (年初)
売上高	3,390	3,357	32	1.0%	3,360
協和発酵キリン	3,470	3,430	39	1.2%	3,440
医薬	2,660	2,625	34	1.3%	2,630
バイオケミカル	810	805	4	0.6%	810
その他・内部取引消去	△80	△72	△7	—	△80
営業利益	420	347	72	20.9%	380
協和発酵キリン	420	347	72	20.9%	380
医薬	330	263	66	25.4%	290
バイオケミカル	60	53	6	13.0%	60
その他・のれん償却額消去	91	92	△1	△1.2%	91
のれん償却額	△61	△61	△0	—	△61

売上高

医薬：国内医薬品売上が年初計画を上回る水準で順調に推移していることを反映

バイオケミカル：修正なし

営業利益

医薬：売上高の上方修正に加え、研究開発費の減少を見込む

バイオケミカル：修正なし

<参考> 持分法適用関連会社 サンミゲルビール社の四半期業績

■ サンミゲルビール社 現地ベースの連結業績状況 (2016年1月～2017年3月)

(百万ペソ)	2016年1-3月		2016年4-6月		2016年7-9月		2016年10-12月		2016年累計		2017年1-3月	
	実績	増減	実績	増減	実績	増減	実績	増減	実績	増減	実績	増減
売上高	23,267	23%	24,129	15%	21,902	15%	27,862	18%	97,160	18%	25,364	9%
営業利益	6,050	17%	6,524	14%	6,140	26%	8,474	23%	27,188	20%	6,677	10%
営業利益率	26.0%		27.0%		28.0%		30.4%		28.0%		26.3%	

出所：San Miguel Brewery Inc. Financial Highlights

2Q連結取込み期間

■ サンミゲルビール社 配当金データ (2016年1月～2016年12月)

(百万ペソ)	2016年 1-3月	2016年 4-6月	2016年 7-9月	2016年 10-12月	2016年 累計
純利益	4,018	4,234	3,952	5,454	17,658
配当金	2,458	2,612	2,612	2,765	10,446
配当金/株	0.16	0.17	0.17	0.18	0.68

出所：San Miguel Brewery Inc. Financial Highlights

■ 持分法による2Q連結取込み (連結期間：2016年10月～2017年3月)

(億円)	2017年 2Q	2016年 2Q
売上高	1,202	1,180
営業利益	340	323
連結純利益 (連結取込)	65	48

為替レート：1ペソ = 2.26円（前年同期：2.52円）

KIRIN

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。

銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.